

## 平成27, 28年度 土木学会第1回複合構造委員会 議事録

1. 日 時：平成27年6月17日（水）14:00～16:45
2. 場 所：土木学会講堂
3. 出席者：池田顧問，伊藤顧問，奥井委員長，西崎副委員長，滝本幹事長，上田委員，大西委員，大山(博)委員，街道委員，加藤委員，上原子委員，菅野委員，北根委員，鬼頭委員，小林委員，近藤委員，佐々木委員，島委員，高野委員，立神委員，玉井委員，趙委員，内藤委員，中島委員，中村(俊)委員，藤井委員，藤山委員，古市委員，古内委員，松田委員，松本委員，三ツ木委員，渡辺委員，池田幹事，斉藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，平幹事，広瀬幹事，溝江幹事  
(敬称略，計 39 名)
4. 配付資料：
  - 委1-0 議事次第
  - 委1-1 委員名簿
  - 委1-2 第4回複合構造委員会(平成25・26年度)議事録(案)
  - 委1-3 複合構造委員会組織図
  - 委1-4-1 複合構造委員会の小委員会一覧
  - 委1-4-2 平成27年度年間スケジュール
  - 委1-5 常設小委員会および第1種研究小委員会の委員の変更・追加
  - 委1-6-1 第一種小委員会設置見直し(案)
  - 委1-6-2 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会設立趣意書
  - 委1-6-3 各種ずれ止めの性能設計のための調査研究小委員会設立趣意書
  - 委1-7-1 平成26年度委員会決算
  - 委1-7-2 平成27年度委員会予算(案)
  - 委1-8-1 平成25・26年度第12回複合構造委員会幹事会議事録
  - 委1-8-2 平成27・28年度第1回複合構造委員会幹事会議事録(案)
  - 委1-9-1 平成26年度活動度評価結果(平成27年度予算配分)
  - 委1-9-2 平成26年度委員会自己評価
  - 委1-9-3 JSCE2015自己評価票
  - 委1-9-4 平成28年度文部科学大臣表彰の推薦について
  - 委1-10 論文集特集号について
  - 委1-11 第11回複合・合成シンポジウム準備状況
  - 委1-12-1 平成27年度年次学術講演会(研究討論会)
  - 委1-12-2 平成27年度年次学術講演会(共通セッション)

- 委1-13 出版関連報告
- 委1-14-1 H101 複合構造標準示方書小委員会
- 委1-14-2 H181 鋼コンクリート合成床版設計・施工指針作成小委員会
- 委1-14-3 H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会
- 委1-14-4 H213 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会
- 委1-14-5 H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会

## 5. 議事内容：

### (1) 委員長挨拶

奥井委員長より就任の挨拶がなされた。

### (2) 委員自己紹介（委1-1）

委員の自己紹介があった。

### (3) 第4回複合構造委員会 議事録（案）の確認（委1-2）

池田幹事（葛西幹事の代理）より、資料に従い、議事録(案)の紹介があった。内容について、了承された。なお、委員長より補足のコメントがあった。以下がコメント。

#### 【コメント】

- ・委1-2(19)の成果公表の直しは、幹事会での議論も踏まえ、新しい第二種委員会を立ち上げやすくする目的の変更である。若い人を中心とした新しい小委員会の立ち上げも積極的に行っていききたいため、新しい委員会の良いアイデアがあればメールなどで提案して欲しい。

### (4) 複合構造委員会(平成27・28年度)委員会・幹事会体制（委1-3, 委1-4-1, 委1-4-2）

滝本幹事長より、委員の変更・追加を中心とした委員会・幹事会の新しい体制、および平成27年度の委員会スケジュールの説明があった。

### (5) 常設小委員会の委員の変更・追加（委1-5）

滝本幹事長より、常設小委員会および第1種研究小委員会の委員の変更・追加について説明があった。H101においては、新しい示方書の地方での講習会は旧委員が対応するとし、次の示方書改訂作業を行う新しい体制の委員は後日メール審議とすることが説明された。

なお、委員長より補足のコメントがあった。以下がコメント。

#### 【コメント】

- ・H002においては、活動内容に応じて人数を増やすことも考えている。条件に合致するかのヒアリングは必要となるが、興味がある方は連絡が欲しい。

#### 【審議事項】

### (6) 第1種研究小委員会の設置および改組（委1-6-1, 委1-6-2, 委1-6-3）

滝本幹事長より、第1種研究小委員会におけるタスクフォース的委員会の位置づけや細則変

更等について説明があり、承認された。

なお、以下の質疑があった。

**【質疑】**

- ・（質問）P18説明文とP19表1では活動期間の記載が合致していないが、どちらが正か？  
（回答）表1が正であり、1期2年で1期の延長可である。
- ・（質問）示方書改訂の課題解決が目的であれば、改訂時期に対応した任期とすべきでは？  
（回答）改訂に間に合わず、その次の改訂まで課題を持ち越す可能性もあるため、臨機応変に活動出来るよう表1の通り1期2年を目標として、1期の延長可とする。
- ・（質問）運用上、150番台の小委員会の立ち上げは、どこからの依頼で、いつ、どのように決定されるのか？活動が必要であっても200番台にするなどの判断もありえるのでは？  
（回答）示方書小委員会からの意見が多くなると思われるが、基本的には課題を見出した人が幹事会に意見を挙げて、その設立趣意書に対して幹事会が150番台か200番台かの判断をすることになるのではないかと。今回のずれ止め小委員会においても示方書小委員会から短期間で議論すべき明確な課題として依頼があり、幹事会で認めてもらったという経緯である。ずれ止め以外でも、FRPの施工等、他にも話が挙げられているので、具体的にになった時点でどのような番号とするかを幹事会で議論するはずである。
- ・（質問）研究小委員会の一つとして、公表や出版の判断をするという認識でよいか？  
（回答）その通りであり、公表は報告書を作って講習会を開いても良い。ただし、狭い範囲のテーマでは人が集まらない可能性もあり、原則という表記を追加している。

滝本幹事長より、H103の活動再開に対する設立趣意書の説明があり、委員については後日メール審議とすることが説明された。

なお、以下の質疑があった。

**【質疑】**

- ・（質問）追加要望として、留学生にも利用出来る英語版も作成を考えて欲しい。示方書となる前のガイドラインには英語版があり利用価値が高かった。多大な労力を要するのは理解出来るが、エッセンスだけを抜き出すなどの省力化した対応でもよい。  
（回答）大山委員長とも相談して、その点も踏まえて委員の選定を進める。

古内委員より、H150の設立趣意書の説明があり、承諾された。

なお、以下の質疑があった。

**【質疑】**

- ・（質問）委員を公募する予定はないか？  
（回答）活動期間中に委員を追加することも考えているが、1種委員会であるため公募は行わない。

(7) 平成26年度委員会決算と平成27年度委員会予算（案）（委1-7-1, 委1-7-2）

池田幹事より、昨年度決算が報告され、滝本幹事長より、今年度予算案について説明があっ

た。昨年度決算においては、H005の特集号の校正費が3月に間に合わず約10万円が未消化となった。今年度予算案については、調査研究費81万円の配分があり、未定分の調査研究拡充支援金と合わせて、合計110～130万円の予算となる。これとは別にH181に受託研究費100万円の予算がある。委員会内での配分案として110万円と130万円の場合について説明された。下記の指摘に対応することとし、予算案について方針が認められた。

- ・（質問）H150で実験が必要となった場合の配分はどのようにするのか？  
（回答）示方書小委員会の予算は、土木学会以外での開催時の会議室代の充当が基本であり、その点では多少残すことは可能であるが、実験費用を賄うほどの調整は無理である。以前のH206のように、実験時の消耗品などだけでも補助するなどの対応は検討する。
- ・（質問）示方書改訂講習会の地方開催が今後予定されているが、場合により講師の旅費をお願いすることは可能か？講師を開催地区の関係者をお願いするなどしても、参加人数の確保も難しく、予定されている配分内での調整には無理がある。  
（回答）その点を配慮して配分についてももう少し見直すとする。
- ・（質問）委員会活動が赤字となった場合はどのような処置となるのか？  
（回答）次年度の委員会予算から赤字分が減額となる。

(8) その他  
特になし。

#### 【報告事項】

(9) 幹事会報告（委1-8-1, 委1-8-2）

池田幹事より、昨年度の第12回の幹事会について、斉藤(成)幹事より、今年度の第1回の幹事会について議事録を紹介した。

(10) 平成26年度委員会活動度評価、自己評価、文部科学大臣表彰の推薦（委1-9-1～委1-9-4）  
滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。

(11) 論文集特集号（委1-10）

島委員より、資料に沿って説明があった。編集委員会の第2期活動として、第2巻の一般論文の3編を土木学会賞に推薦するかどうかの検討を追加すると補足された。

なお、以下の質疑があった。

#### 【質疑】

- ・（質問）校正費を次年度の予算処理とすることで発刊が遅れることにならないか？また、遅れないような工夫は実施しているか？  
（回答）予算が立てやすいため次年度処理とすることとしたが、それで発刊が遅れることはない。予算処理に関わらず、11月のシンポジウム後、2月最終稿、3月校正で5月の発刊という余裕の無い工程であり、出来る限り早く発刊するというポリシーは守っている。

(12) 第11回複合・合成シンポジウム準備状況 (委1-11)

溝江幹事より、資料に沿って説明があった。土木の投稿数は31編でなく33編が正であるとの訂正があった。

(13) 平成27年度全国大会（研究討論会、共通セッション） (委1-12-1, 委1-12-2)

斉藤(成)幹事より、研究討論会について、資料に沿って説明があった。日程が3日目の夕方であるため、参加および集客協力の呼びかけがあった。

広瀬幹事より、共通セッションについて、資料に沿って説明があった。

(14) 出版関係報告 (委1-13)

滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。新しい示方書の一般販売が来週開始されること、レポート07～12の販売促進に協力して欲しいことが補足された。

なお、以下の質疑があった。

【質疑】

(質問) 2009制定の示方書は今後も販売を続けるのか？

(回答) この3ヶ月でも2冊売れているが、今後は出版委員会で販売を停止するかもしれない。

(15) 小委員会報告 (委1-14-1～委1-14-5)

(H101) 複合構造標準示方書小委員会

斉藤(成)小委員会連絡幹事より、資料に沿って説明があった。

7月頃に幹事会を開き、改訂方針と委員構成の検討を行う。

【質疑】

(質問) 5年ごとの改訂は決まったことと考えて良いか？

(回答) 単なるルーティーンとならないよう、幹事会で方針を検討する

(H181) 鋼コンクリート合成床版設計・施工指針作成小委員会

滝本小委員会幹事より、資料に沿って説明があった。

12/31まで期間延長となった。最終原稿脱稿が10月末、来年1/15に講習会を開催予定。

【質疑】

(質問) 講習会は委託側の共催になるのか？

(回答) 以前のFRPの時は土木学会主体で開催した。橋梁建設協会に確認する。

(質問) 最終原稿の意見照会はいつ頃か？

(回答) 6月の最終委員会後となる。委員各位に協力をお願いしたい。

(H212) 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会

斉藤(成)小委員会委員長より、資料に沿って説明があった。

(H213) 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会

滝本小委員会連絡幹事より資料に沿って説明があった。

(H214) 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会

大西小委員会委員長より資料に沿って説明があった。

(16) その他

- ・5/22の示方書改訂の講習会は約140名の参加により無事開催されたとの報告があった。
- ・英訳図書の出版について、合成桁などの計算事例も非常に有益であるので、それらも含めて考えて欲しい。新しい示方書改訂小委員会にも期待したい。との意見が挙げられた。
- ・メール審議や講習会参加について協力依頼がなされた。
- ・次回の委員会は 12月22日（火）に開催予定である。

(17) 閉会の挨拶

西崎副委員長より閉会の挨拶があった。

以上。  
(記録・文責：齋藤隆)